

企業ニーズ調査における業種別の特徴

1 製造業

1 回答企業について

- 従業員数は「10～29人」が約2割で最多であるが、50人以上の合計は約4割を占め、他業種と比べて規模が大きい。
- 製造業と回答した395事業所の所在地は、南信地域が約5割となっている。

2 採用について

(社員の充足状況)

- 技術系は約5割、技能系も約4割の事業所で「不足している」又は「やや不足している」となっている。
- 技術系で不足しているのは「設計・開発等を担当する技術者」で約6割。
技能系で不足しているのは「若年の技能者」が約5割、「中堅の技能者」が約4割となっている。

(採用時に求めるもの)

- 「会社や仕事に対する熱意・意欲」が約6割で最も高くなっている。

3 人材について

(入社前に身につけるべき技術等)

- 「材料や工作法、電気・電子等に係る基礎知識」が約5割で最も高く、特に東信と中信では約6割である。
地域的な特徴としては、南信で「製造機械・装置の操作」の割合が他地域より高くなっている。

4 人材育成の課題及び熟練技能の継承について

- 人材育成の取組に課題があるとしている事業所は約7割で、全体平均より高い。
- 課題と感じている理由としては、「指導する人材が不足している」と「人材育成にかかる時間がない」がそれぞれ約7割であるが、指導人材不足との回答が多い。
- 熟練技能の継承に課題があると感じている事業所が約8割、また、必要な対策を講じている事業所が約5割となっており、いずれも他業種より高い。

5 工科短期大学校・技術専門学校について

(認知度)

- 工科短期大学校(上田市)については、「どのような教育訓練を行っているか知っている」が約2割、「名前は聞いたことがあるが、具体的な内容は知らない」が約5割となっており、一定の知名度はある。
- 南信工科短期大学校(上伊那郡南箕輪村)については、「内容をよく知っている」が約1割、「名前は聞いたことがあるが具体的な内容は知らない」が約2割となっている。
- 技術専門学校については、「どのような教育訓練を行っているか知っている」が約3割、「名前は聞いたことがあるが、具体的な内容は知らない」が約4割となっており、一定の知名度はある。

(採用事業所が卒業(修了)生について評価できること)

- 工科短期大学校(上田市)については、「基礎的な技術・技能・知識」が約9割で最も高く、次いで、「社会常識やビジネスマナー」が約5割、「専門的な技術・技能・知識」が約3割と続いている。
- 技術専門学校については、「基礎的な技術・技能・知識」が約8割で最も高く、次いで、「自分で考え実行する応用力」と「社会常識やビジネスマナー」がそれぞれ約2割となっている。

(採用事業所が卒業(修了)生について不足していると思われること)

- 工科短期大学校(上田市)については、「コミュニケーション能力・プレゼンテーション能力・折衝能力」が約6割、「自分で考え実行する応用力」が約4割となっている。
- 技術専門学校については、「自分で考え実行する応用力」と「問題発見解決能力・課題設定能力・創造力」がいずれも約4割で最も高くなっている。

(今後積極的に取り組んでほしいこと)

- 工科短期大学校及び南信工科短期大学校については、「基礎的な技術・技能・知識に関する教育訓練の充実」が約6割、「専門的な技術・技能・知識に関する教育訓練の充実」が約5割となっている。
- 技術専門学校については、「基礎的な技能を身につける1年程度の職業訓練の充実」が約4割、「応用的な技能を身につける2年程度の職業訓練の充実」が約3割となっている。
- 在職者向けの訓練については、工科短期大学校及び南信工科短期大学校には「企業の社員を対象とした講習会等の充実」、技術専門学校には「企業の社員を対象とした数日程度の講習会の充実」がそれぞれ約2割となっている。

6 施策の認知度等について

- 産業人材カレッジ・スキルアップ講座については、関連講座が多いこともあり、「知っているし、利用している」が約1割と他業種より高い。また、「知っているが、利用していない」と合わせると約4割の認知度がある。
- 「知っているが、利用していない」理由としては、「講座を受講させる時間がない」が最も多い。

2 建設業

1 回答企業について

- 従業員数は10人未満が約6割を占め、自動車整備業に次いで規模が小さい。
- 建設業と回答した488事業所の所在地は、北信・南信地域が約3割、中信地域が約2割となっている。

2 採用について

(社員の充足状況)

- 技術系、技能系ともに約4割の事業所で「不足している」又は「やや不足している」となっている。
- 技術系で不足しているのは「生産管理・工程管理を担当する技術者」で約5割。
技能系で不足しているのは「若年の技能者」が約6割となっており、他業種と比べ一番高い。

(採用時に求めるもの)

- 「会社や仕事に対する熱意・意欲」が約5割で最も高くなっている。

3 人材について

(入社前に身につけるべき技術等)

- 東信・北信では「基本的な施工技術」、南信・中信では「資格」が最も多い。「資格」については、「土木施工管理技士」が多い。

(採用後の技術系・技能系社員育成・確保)

- 採用後に身につけさせたい能力として最も高いのは、「1人で複数の異なる作業や工程を遂行する能力」であるが、「工程管理・品質管理・施工管理等の管理能力」も約6割と、他業種と比較して高い。
- 現在の取組及び今後の取組について、「必要な技術・技能・知識を持っている人材の中途採用」の割合が約6割で最多となっており、他業種に比べて「OJT」の割合が低くなっている。

4 人材育成の課題及び熟練技能の継承について

- 人材育成の取組に課題があるとしている事業所は約6割となっている。
- 課題と感じている理由としては、「人材育成にかかる時間がない」と「指導する人材が不足している」がそれぞれ約6割となっている。また、「人材育成をしても、すぐに辞めてしまう」が約4割となっており、他業種より10ポイント近く高い。
- 熟練技能の継承に課題があると感じている事業所は約7割で、必要な対策を講じている事業所は約3割となっている。

5 工科短期大学校・技術専門学校について

(認知度)

- 工科短期大学校(上田市)については、「名前は聞いたことがあるが、具体的な内容は知らない」が5割弱、「知らない」が4割強となっている。
- 技術専門学校については、「どのような教育訓練を行っているか知っている」が約2割、「名前は聞いたことがあるが、具体的な内容は知らない」が約5割となっており、一定の知名度はある。

(採用事業所が卒業(修了)生について評価できること)

- 工科短期大学校(上田市)については、採用実績が極めて少なかった。
- 技術専門学校については、「基礎的な技術・技能・知識」が約7割で最も高く、次いで、「自分で考え実行する応用力」が約3割となっている。

(採用事業所が卒業(修了)生について不足していると思われること)

- 技術専門学校については、「問題発見解決能力・課題設定能力・創造力」、「社会常識やビジネスマナー」がそれぞれ約3割となっている。

(今後積極的に取り組んでほしいこと)

- 工科短期大学校及び南信工科短期大学校については、「基礎的な技術・技能・知識に関する教育訓練の充実」が約5割、「専門的な技術・技能・知識に関する教育訓練の充実」が約4割となっている。また、建設、土木系の新設の要望が自由記述で7社ある。
- 技術専門学校については、「基礎的な技能を身につける1年程度の職業訓練の充実」、「基礎的な技能の一部を身につける6ヶ月程度の職業訓練の充実」がそれぞれ約3割となっている。

6 施策の認知度等について

- 産業人材カレッジ・スキルアップ講座については、この業種を対象とした講座があまりないことから、「知らないし、今後利用する予定もない」が約5割となっている。

3 印刷業

1 回答企業について

- 従業員数は「10～29人」が約3割で最も多く、29人以下が8割以上を占める。
- 印刷業と回答した111事業所の所在地は、北信地域が約4割となっている。

2 採用について

(社員の充足状況)

- 技術系、技能系ともに、約6割の事業所が「充足している」又は「ほぼ充足している」と回答している。

(採用時に求めるもの)

- 「会社や仕事に対する熱意・意欲」が約5割で最も高くなっている。

3 人材について

(入社前に身につけるべき技術等)

- 「DTP操作」、「デザイン」、「印刷業務の仕事の流れに関する基礎知識」がそれぞれ約4割ずつとなっている。
回答事業所が最も多かった北信では、「印刷業務の仕事の流れに関する基礎知識」と「DTP操作」が約4割となっている。

4 人材育成の課題及び熟練技能の継承について

- 人材育成の取組に課題があるとしている事業所は約6割となっている。
- 課題と感じている理由としては、「人材育成にかける時間がない」が約6割で最も高く、次いで「指導する人材が不足している」が約5割、「社内に統一された指導マニュアルがない」が約4割となっている。
- 熟練技能の継承に課題があると感じている事業所は約6割で、必要な対策を講じている事業所は約2割となっている。

5 工科短期大学校・技術専門校について

(認知度)

- 工科短期大学校(上田市)について、「どのような教育訓練を行っているか知っている」が約1割、「名前は聞いたことがあるが、具体的な内容は知らない」が約4割となっている。
- 南信工科短期大学校(上伊那郡南箕輪村)について、「名前は聞いたことがあるが、具体的な内容は知らない」、「知らない」を合わせ、9割を超えている。
- 技術専門校について、「どのような教育訓練を行っているか知っている」が約2割、「名前は聞いたことがあるが、具体的な内容は知らない」が約5割となっている。

(採用事業所が卒業(修了)生について評価できること)

- 工科短期大学校(上田市)については、採用実績が極めて少なかった。
- 技術専門校については、「基礎的な技術・技能・知識」の評価が高い。

(採用事業所が卒業(修了)生について不足していると思われること)

- 技術専門校については、「自分で考え実行する応用力」が不足しているとする事業所が最も多くなっている。

(今後積極的に取り組んでほしいこと)

- 工科短期大学校及び南信工科短期大学校については、「基礎的な技術・技能・知識に関する教育訓練の充実」が約4割、「専門的な技術・技能・知識に関する教育訓練の充実」が約2割となっている。
- 技術専門校については、「基礎的な技能を身につける1年程度の職業訓練の充実」が2割強、「企業等へのインターンシップ」、「基礎的な技能の一部を身につける6ヶ月程度の職業訓練の充実」がそれぞれ2割弱となっている。

6 施策の認知度等について

- 産業人材カレッジ・スキルアップ講座については、この業種を対象とした講座があまりないことから、「知らないし、今後利用する予定もない」が約5割となっている。

4 情報通信業

1 回答企業について

- 従業員数は「10～29人」が約3割で最も多く、29人以下の事業所が7割以上を占める。
- 情報通信業と回答した95事業所の所在地は、北信地域が約4割となっている。

2 採用について

(社員の充足状況)

- 技術系は約6割の事業所で「不足している」又は「やや不足している」となっている。一方、技能系は約4割の事業所で「過剰である」又は「(ほぼ)充足している」となっており、「不足している」又は「やや不足している」と回答した事業所の割合を上回っている。
- 技術系で不足しているのは「設計・開発等を担当する技術者」で約8割。
技能系で不足しているのは「若年の技能者」が約4割、「熟練技能者」が約2割となっている。

(採用時に求めるもの)

- 「コミュニケーション能力」が約6割で最も高く、他業種と比べても高い割合となっている。

3 人材について

(入社前に身につけるべき技術等)

- 「アプリケーション開発」が約6割で最も高く、特に東信では約9割である。
地域的な特徴としては、東信で「組み込み」の割合が他地域より高くなっている。

(採用後の技術系・技能系社員育成・確保)

- 採用後に身につけさせたい能力としては、「特定の領域で高度な技能を発揮する能力」が約5割で、他の業種より高くなっている。

4 人材育成の課題及び熟練技能の継承について

- 人材育成の取組に課題があると感じている事業所は約7割となっている。
- 課題と感じている理由としては、「指導する人材が不足している」が約7割、「人材育成にかける時間がない」が約6割、「社内に統一された指導マニュアルがない」が約5割となっている。
- 熟練技能の継承に課題があると感じている事業所と、課題があると感じていない事業所の割合はほぼ半々となっており、必要な対策を講じている事業所は約1割にとどまる。

5 工科短期大学校・技術専門校について

(認知度)

- 工科短期大学校(上田市)については、「どのような教育訓練を行っているか知っている」が約2割、「名前は聞いたことがあるが、具体的な内容は知らない」が約5割となっており、一定の知名度はある。
- 技術専門校について、「どのような教育訓練を行っているか知っている」が1割強、「名前は聞いたことがあるが、具体的な内容は知らない」が約4割となっている。

(採用事業所が卒業(修了)生について評価できること)

- 工科短期大学校(上田市)については、「基礎的な技術・技能・知識」や「専門的な技術・技能・知識」の評価が高かった。
- 技術専門校については、採用実績が極めて少なかった。

(採用事業所が卒業(修了)生について不足していると思われること)

- 工科短期大学校(上田市)については、「自分で考え実行する応用力」、「コミュニケーション能力・プレゼンテーション能力・折衝能力」、「問題発見解決能力・課題設定能力・創造力」がそれぞれ同じ割合となっている。

(今後積極的に取り組んでほしいこと)

- 工科短期大学校及び南信工科短期大学校については、「専門的な技術・技能・知識に関する教育訓練の充実」が5割強、「基礎的な技術・技能・知識に関する教育訓練の充実」が5割弱となっている。
- 技術専門校については、「応用的な技能を身につける2年程度の職業訓練の充実」が約4割、「基礎的な技能を身につける1年程度の職業訓練の充実」が約3割となっている。

6 施策の認知度等について

- 産業人材カレッジ・スキルアップ講座については、この業種を対象とした講座がないことから、「知らないし、今後利用する予定もない」が約5割となっている。
- 産業人材育成支援センター研修サイトについては、「知っているし、利用している」の割合は3.2%で製造業の次に高い。また、「知らないが、今後利用してみたい」が約5割となっており、他業種に比べて高い。

5 自動車整備業

1 回答企業について

- 従業員数「5～9人」が約4割で最多であり、29人以下が9割以上と規模の小さい事業所が多い。
- 自動車整備業と回答した134社は、4地域とも概ね2～3割で平均的に分布している。

2 採用について

(社員の充足状況)

- 技術系、技能系とも約5割が「充足している」又は「ほぼ充足している」としている。
- 技能系については、約3割が「不足している」又は「やや不足している」と回答しており、うち約5割が「若年の技能者」の不足を挙げている。

(採用時に求めるもの)

- 「会社や仕事に対する熱意・意欲」の他、「あいさつ、身だしなみ等の社会常識や時間管理能力、ビジネスマナー等」と「専門的な技術・技能・知識」を求める回答が多かった。

3 人材について

(入社前に身につけるべき技術等)

- 「2級自動車整備士」が約7割で最も高く、次に多い「低公害車(ハイブリッド車や燃料電池車等)についての基礎知識」(約3割)と比較しても特にニーズが高い。

(採用後の技術系・技能系社員育成・確保)

- 今後の取組は、「必要な技術・技能・知識を持っている人材の中途採用」が「OJT」よりやや多く、全体の集計結果と順位が逆転している。

4 人材育成の課題及び熟練技能の継承について

- 人材育成の取組に課題があるとしている事業所は約5割となっており、6業種中最も低い。
- 課題と感じている理由としては、「人材育成にかかる時間がない」が約7割、「指導する人材が不足している」が約5割となっている。
- 熟練技能の継承に課題があると感じている事業所は約6割で、必要な対策を講じている事業所は約2割となっている。

5 工科短期大学校・技術専門校について

(認知度)

- 工科短期大学校(上田市)について、「どのような教育訓練を行っているか知っている」が1割以下で、「名前は聞いたことがあるが、具体的な内容は知らない」と合わせて約5割となっている。
- 南信工科短期大学校(上伊那郡南箕輪村)について、「内容をよく知っている」が0%、「名前は聞いたことがあるが具体的な内容は知らない」が約1割となっている。
- 技術専門校について、「どのような教育訓練を行っているか知っている」が約2割、「名前は聞いたことがあるが、具体的な内容は知らない」が約5割となっており、一定の知名度はある。

(採用事業所が卒業(修了)生について評価できること)

- 工科短期大学校(上田市)については、採用実績が極めて少なかった。
- 技術専門校については、「基礎的な技術・技能・知識」が約8割で最も高く、次いで「専門的な技術・技能・知識」が約3割となっている。

(採用事業所が卒業(修了)生について不足していると思われること)

- 技術専門校については、「社会常識やビジネスマナー」が約6割で最も高く、次いで「自分で考え実行する応用力」、「問題発見解決能力・課題設定能力・創造力」がそれぞれ5割となっている。

(今後積極的に取り組んでほしいこと)

- 工科短期大学校及び南信工科短期大学校については、「基礎的な技術・技能・知識に関する教育訓練の充実」、「専門的な技術・技能・知識に関する教育訓練の充実」がそれぞれ約5割となっている。
- 技術専門校については、「基礎的な技能を身につける1年程度の職業訓練の充実」、「応用的な技能を身につける2年程度の職業訓練の充実」がそれぞれ約3割となっている。
※「1年程度の訓練」を選択した事業所の約8割は2級整備士を求めていることから、「基礎的な技能」を求めているものと考えられる。

6 施策の認知度等について

- 産業人材カレッジについては、「知っているし、利用している」が0.7%、「知っているが、利用していない」が約1割、「知らないが、今後利用してみたい」が約2割となっており、利用したいと答えた割合が6業種中最も低い。
- 「知っているが、利用していない」理由としては、「利用したい講座がない」が最も多い。

6 福祉・介護関連業

1 回答企業について

- 従業員数は「10～29人」が約2割で最多であるが、50人以上が約3割を占め、製造業に次いで事業所規模が大きい。
- 福祉・介護関連業と回答した349社は、東信がやや少なめながら、4地域とも概ね2～3割で平均的に分布している。

2 採用について

(社員の充足状況)

- 技術系については、「研究」や「品質管理」等になじまないため、無回答とする事業所が多かった。
- 技能系について、約5割の事業所で「不足している」又は「やや不足している」とする一方、約4割の事業所が「充足している」又は「ほぼ充足している」と回答している。
- 不足している技能系社員の分野は、「若年の技能者」と「中堅の技能者」がそれぞれ約3割となっている。

(採用時に求めるもの)

- 人との係わりが多い職場であることから、「コミュニケーション能力」が約5割で最も高く、次いで、「あいさつ、身だしなみ等の社会常識や時間管理能力、ビジネスマナー等」が約4割となっている。

3 人材について

(入社前に身につけるべき技術等)

- 「介護福祉士(ケアワーカー)」が約8割で突出しており、次いで「介護職員初任者研修」と「看護師」がそれぞれ約5割となっている。

(採用後の技術系・技能系社員育成・確保)

- 採用後に身につけさせたい能力としては、「1人で複数の異なる作業や工程を遂行する能力」が約5割、「特定の領域で高度な技能を発揮する能力」が約3割となっている。
- 現在の取組、今後の取組とも他業種と比べてOff-JTの割合が高く、教習機関の充実が窺われる。

(自由記載)

- 職務の性質上、対人スキルやコミュニケーション能力を求める記載が複数あった。

4 人材育成の課題及び熟練技能の継承について

- 人材育成の取組に課題があるとしている事業所は約8割で、6業種中最も高い。
- 課題と感じている理由としては、「人材育成にかかる時間がない」と「指導する人材が不足している」がそれぞれ約7割となっている。
- 熟練技能の継承に課題があると感じている事業所は約6割で、必要な対策を講じている事業所は約3割となっている。

(自由記載)

- 国や県の取組を評価する声がある一方で、人材確保の更なる取組を求める声も多かった。
- 資格取得等の講座開催地が長野市をはじめ特定地域に偏っているため、参加しにくいとの声がある。

5 工科短期大学校・技術専門校について

(認知度)

- 工科短期大学校(上田市)について、関連する学科がないことから「知らない」が約5割、「名前は聞いたことがあるが、具体的な内容は知らない」が約4割となっている。
- 南信工科短期大学校(上伊那郡南箕輪村)についても同様に、「知らない」が約8割となっている。
- 技術専門校については、「名前は聞いたことがあるが、具体的な内容は知らない」が約5割となっている。

(採用事業所が卒業(修了)生について評価できること)

- 工科短期大学校(上田市)卒業生を採用したことのある事業所はなく、技術専門校修了生を採用したことのある事業所は「基礎的な技術・技能・知識」の評価が高かった。

(採用事業所が卒業(修了)生について不足していると思われること)

- 技術専門校については、「自分で考え実行する応用力」が不足しているとする事業所が最も多くなっている。

(今後積極的に取り組んでほしいこと)

- 工科短期大学校及び南信工科短期大学校については、「専門的な技術・技能・知識に関する教育訓練の充実」、「基礎的な技術・技能・知識に関する教育訓練の充実」がそれぞれ約3割となっている。
- 技術専門校については、「基礎的な技能を身につける6か月程度の職業訓練の充実」、「基礎的な技能を身につける1年程度の職業訓練の充実」及び「職員の資質向上」がそれぞれ約2割となっている。

6 施策の認知度等について

- 産業人材カレッジ・スキルアップ講座については、この業種を対象とした講座が無いことから、「知らないし、今後利用する予定もない」が約5割となっている。